

先端 IT 活用推進コンソーシアム  
(AITC)

第 三 回 総 会

議 案 書

2012 年 10 月 12 日(金)

於 リコーIT ソリューションズ株式会社

## 目 次

第 1 号議案 2011 年度活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第 2 号議案 2011 年度収支報告の件	
・ 2011 年度収支決算のご報告にあたって.....	2-1
・ 収支計算書.....	2-2
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-3
・ 監査報告書.....	2-4
第 3 号議案 会員規約改定の件	
・ 会員規約改定.....	3-1
第 4 号議案 2012 年度活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	4-1
・ 2012 年度の活動計画.....	4-2
第 5 号議案 2012 年度予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	5-1
第 6 号議案 2012 年度理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	6-1
付属資料	
・ 2012 年度活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクト(Project LA)の活動計画～	

注:AITC における年度は下記の通りです。

2011 年度:2011 年 9 月 1 日～2012 年 8 月 31 日

2012 年度:2012 年 9 月 1 日～2013 年 8 月 31 日

## 第 1 号議案

2011 年度活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

# 1. 活動実績

1. 会員数 : 2010年09月08日(設立時) 会員:21会員(1特別会員を含む)  
 2011年08月31日 会員:48会員(5個人会員、2学会会員、3特別会員を含む)  
 2011年10月21日(第二回総会時) 会員:48会員(6個人会員、2学会会員、3特別会員を含む)  
 2012年08月31日 会員:53会員(7個人会員、3学会会員、3特別会員を含む)  
 2012年10月12日(第三回総会時) 会員:51会員(6個人会員、2学会会員、3特別会員を含む)

## 2. 活動実績

### 1) 総会

#### ・第二回総会開催

開催日 2011年10月21日  
 開催会場 日本ユニシス株式会社 本社(豊洲)  
 参加者数 66名

### 2) 理事会 : 開催2回、ML審議4回

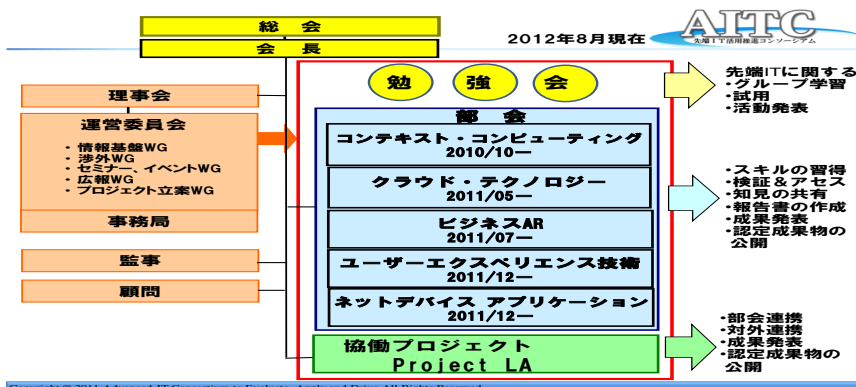
- ・理事会 : 2011年09月30日、2011年10月21日 (2012年09月21日、2012年10月12日)  
 ・ML審議: 2011年12月02日~2011年12月09日 AITC顧問就任の件  
 慶應義塾大学大学院 稲見昌彦教授  
 2012年06月25日~2012年07月02日 ビジネスAR研究部会顧問就任の件  
 デジタルハリウッド大学大学院 三淵啓自教授  
 AR三兄弟 長男 川田十夢氏  
 2012年07月17日~2012年07月23日 2011年度会員アンケート実施の件  
 2012年08月13日~2012年08月22日 三淵研究室とBizAR研究部会アライアンス・パートナー締結の件

### 3) 運営委員会 : 開催13回、ML審議9回

- ・運営委員会: 2011年09月30日、2011年10月21日、2011年10月28日、2011年11月25日、2011年12月22日  
 2012年01月27日、2012年02月24日、2012年03月23日、2012年04月27日、2012年05月25日、  
 2012年06月22日、2012年07月27日、2012年08月24日、(2012年09月13日、09月21日、10月12日)  
 ・ML審議 : 2011年10月17日~2011年10月19日 入会承認の件  
 2011年10月19日~2011年10月20日 学会会員入会承認の件  
 2011年12月16日~2011年12月21日 入会承認の件  
 2012年05月11日~2012年05月17日 入会承認の件  
 2012年05月15日~2012年05月18日 入会承認の件  
 2012年06月07日~2012年06月13日 個人会員入会承認の件  
 2012年07月12日~2012年07月19日 個人会員入会承認の件  
 2012年08月03日~2012年08月12日 三淵研究室とBizAR研究部会アライアンス・パートナー締結の件  
 2012年08月27日~2012年08月29日 入会承認の件

### 4) 2011年度の活動対象分野と体制

- ① クラウド・テクノロジー : 勉強会活動を経て、2011年5月に部会化
- ② コンテキスト・コンピューティング : 2010年10月より部会活動展開中
- ③ 拡張現実(AR) : ビジネスARをテーマに2011年7月より部会活動開始
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術 : 2011年12月より部会活動開始
- ⑤ ネットデバイス アプリケーション : 2011年12月よりUX技術と合同で活動中
- ⑥ ソーシャル・コミュニケーション: 設立当初より全活動で活用



(部会:設立順に記載)

5) 主催イベント(セミナー&部会、中間活動報告会&活動成果発表会開催等): 計 12回  
 (以下、クラウド・テクノロジー=Cloud、ユーザーエクスペリエンス=UX、ネットデバイスアプリケーション=NDA、  
 協働プロジェクト(Project LA)=PLA と表す)

---

2011/10/21(金)	先端 IT 活用推進コンソーシアム 2010 年度活動発表会	47名
“	先端 IT 活用推進コンソーシアム第2回総会記念講演	55名
2011/12/02(金)	合同キックオフ セミナー(UX 技術 & NDA)	63名
2012/01/19(木)	3部会合同セミナー(UX 技術 & NDA & Cloud)	40名
2012/02/23(木)	合同セミナー(UX 技術 & NDA)	29名
2012/03/22(木)	合同セミナー(UX 技術 & NDA)	24名
2012/04/20(金)	AITC Day 2012(第2回中間活動報告会)	80名
2012/05/24(木)	協働プロジェクト(Project LA)に関する説明会	28名
“	合同セミナー(UX 技術 & NDA)	24名
2012/06/21(木)	合同セミナー(UX 技術 & NDA)	16名
2012/08/29(水)	AITC Week 2012 (BizAR 講演&発表)	55名
“	(Touch&Tryデモ)	126名
2012/08/30(木)	AITC Week 2012(UX 技術&NDA、Cloud、CC、PLA)	63名

---

延べ参加者: 総数 650名  
 会員 604名  
 非会員 43名 (お試し参加を含む)  
 プレス 3名

6) 部会および部会間連携活動  
 ・部会開催(月次)+部会 SNS(日次)  
 ・協働プロジェクト  
 ・リーダー会議(月次)

① クラウド・テクノロジー研究部会(2011年5月～)  
 月例会部会: 2011/09/26(月)、10/31(月)、11/24(木)、12/21(水)、2012/01/19(木)、02/17(金)、03/14(水)、  
 04/18(水)、05/21(月)、06/15(金)、07/20(金)、08/10(金)

参加者: 計87名

活動実績: ・部会開催: 12回

・勉強会の開催

----- 上期 -----

OpenSocial

Apache LibCloud

Amazon Web Service

Storage Gateway, SNS, S3, Mechanical Turk, Simple Workflow Service

Hadoop

OpenID コネクト(OpenID3.0)

Mahout ハンズオン

レコメンデーション, クラスタリング

----- 下期 -----

トラストフレームワーク(OpenID)

サイエンスクラウドの紹介

・協働プロジェクトのための技術検証

----- 上期 -----

クラウド上の様々な情報にアクセスするために、SNS の共通 API である OpenSocial を使った認証・認可

異なるベンダーのクラウドを相互運用するための、LibCloud に代表されるインタークラウドを実現するためには

Hbase を使った GPV データを格納し表示するプロトタイプの実装

----- 下期 -----

GoogleAppEngine と AWS を利用した Facebook データ収集のプロトタイプ

AWS を利用した Twitter データ収集のプロトタイプ

セマンティック Web プログラミングことはじめ

Jena を使った三つ組みデータの格納と検索

PubSubHubbub 試用レポート

- ② コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月～)  
 月例会部会: 2011/09/16(金)、11/07(月)、11/18(金)、12/16(金)、2012年01/20(金)、02/17(金)、03/16(金)、  
 05/18(金)、06/15(金)、07/20(金)、08/10(金)  
 参加者: 計143名(お試し参加 2名)  
 活動実績: ・部会開催:11回  
 ・コンテキスト・コンピューティングのコンセプトモデル  
   社会的な共有コンテンツが意味的に組織化・構造化されるパラダイムの具体化  
 ・コンテキスト・コンピューティングに基づくプロトタイプ・システム的设计
- ③ ビジネス AR 研究部会(2011年7月～)  
 月例会部会: 2011/09/09(金)、10月14日(金)、11/11(金)、12/09(金)、2012/01/13(金)、02/10(金)、03/09(金)、  
 04/13(金)、05/11(金)、06/08(金)、07/13(金)、08/09(木)  
 参加者: 計89名(お試し参加 18名)  
 活動実績: ・部会開催:12回  
 ・不定期開催  
   SNSによるオンラインミーティング  
   稲見先生(本会顧問)、稲見研究室との交流会  
   試作打ち合わせ  
 ・外部セミナー(ソフトウェアジャパン 2012(2/1)講演  
 ・2011-2012のAR関連情報収集  
 ・AR産業論に関する討議  
 ・デモ開発  
   AR懐中電灯  
   HMD AR  
   ARコンセプトのビジュアルデモ(デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室との協業)
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術部会&ネットデバイスアプリケーション部会(2011年12月～)  
 月例会部会: 2011/12/02(金)、2012/01/19(木)、02/23(木)、03/22(木)、2012/05/24(木)、06/21(木)、07/26(木)、08/23(木)  
 参加者: 計160名(お試し参加10名)  
 活動実績: ・2011年12月部会活動開始  
 ・部会開催:8回(8月度含む)  
 ・セミナー開催:7回 UXデザイン、およびネットデバイスアプリケーション開発に関する講演(講師 計12名)。  
 ・セミナー終了後、毎回、講師を交えたディスカッションを通してUXデザインプロセスに関する知識を習得  
 ・現在、Project LA(System LA)を題材に、UXデザインプロセスを実践中
- ⑤ 協働プロジェクト<Project LA>(2011年7月～検討開始)  
 検討委員会: 2011/09/30(金)、10/11(火)、10/28(金)、11/25(金)、12/03(土)～04(日)合宿、12/22(木)  
 2012/01/11(水)、01/27(金)、02/15(水)、02/24(金)、03/14(水)、04/04(水)、04/12(木)、  
 04/27(金)、05/17(木)、05/25(金)、06/14(木)、06/22(金)、07/11(水)、07/27(金)、08/24(金)  
 参加者: 部会リーダー&運営委員有志  
 活動実績: ・検討会議の開催:21回  
 ・テーマ、シナリオの検討  
 ・システム概要の検討  
 ・発表資料の作成  
 ・プレスリリースでの発表  
 ・Day(4月20日)における概要紹介&参加呼びかけ、Week(8月30日)における状況報告  
 ・日本IBM 東京基礎研究所(レジリエンス担当)との意見交換会(8月31日)
- 7) 公開資料(一般公開)  
 注:会員限定公開の半年後に一般公開を開始  
 2010/12/02(木) RIA 分野第二回セミナー&勉強会  
 ・「HTML5で変わるWebの世界」  
 ・「HTML5の特性について」  
 ・「HTML5の最新動向について」  
 2011/01/06(木) インターネットデバイス アプリケーション開発分野第一回セミナー  
 ・「企業に向けてのスマートフォン戦略」  
 2011/02/23(水) AITC Day 2011(第1回中間活動報告会)  
 ・基調講演「先端ITこそ元気な企業の源だ!」  
 ・活動報告1「クラウド・テクノロジー分野の活動状況について」  
 ・活動報告1「クラウド・テクノロジー分野の活動状況について」-GPV  
 ・招待講演「ユーザーエクスペリエンスとそれを支えるアーキテクチャ」

- ・活動報告2「コンテキスト・コンピューティング研究部会の活動について
- ・特別講演「ARのビジネス展望」
- 2011/04/14(木) 第一回 AR セミナー
  - ・拡張現実の基礎知識と応用事例の紹介
  - ・最先端の AR 技術紹介
- 2011/06/08(水) 第二回 AR セミナー
  - ・拡張現実の活用と展望
  - ・AR BOOK ～ARとUI～
  - ・防災 AR の試みと今後の可能性について
- 2011/10/21(月) 先端 IT 活用推進コンソーシアム 2010 年度活動発表会
  - クラウド・テクノロジー研究部会
  - ・「ガイドラインの調査報告」
  - ・「MMLを使ったプロトタイプ」
  - ・「Mahoutを使ったレコメンデーションのプロトタイプ」
  - ・「数値予報 GPV」
  - ・「GPVを使ったプロトタイプ」
  - コンテキスト・コンピューティング研究部会
  - ・「コンテキスト・コンピューティングとは」
  - ・「コンテキスト・コンピューティングが目指す近未来」
  - ・「コンテキスト・コンピューティング研究部会、今後の活動」
- 2011/10/21(月) 先端 IT 活用推進コンソーシアム第二回総会
  - ・第二回総会 議案書
  - ・招待講演「Over Social Layer ～ ソーシャル時代の先を見据えて ～」
- 2011/12/02(金) 第 1 回 ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会 合同キックオフセミナー
  - ・基調講演「境界のない社会：個人と企業の共生」
  - ・招待講演1「ユーザー エクスペリエンス デザイン」
  - ・招待講演2「iOS/Android UI デザインセオリー」
- 2012/01/19(木) 三部会合同セミナー「クラウド&ネットデバイスセミナー」～ネットデバイスは筋斗雲に憧れる！～
  - ・招待講演1「Mobile + Cloud: Windows Azure を使用したモバイルアプリケーション開発」
  - ・招待講演2「AWS クラウド x ネットデバイスの最新動向」
- 2012/02/01(水) 情報処理学会 ソフトウエアジャパン 2012
  - 「先端 IT の技術者育成と活用推進を目指して～AITC におけるビジネス AR&クラウド技術の活動ご紹介～」
  - ・オープニング /AITC 概要紹介
  - ・講演・1 AR-小さくて大きな話
  - ・講演・2「目玉おやじロボット」と「タイムトラベルナビ」
  - ・講演・3 クラウド・Mahout を使ったプロトタイプ
- 2012/02/23(木) 第 3 回 合同セミナー(ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会)
  - ・招待セミナー1「モバイルアプリ開発と軽量型開発プロセス CYCLONE の適用事例」
  - ・招待セミナー2「マルチデバイス=クロスプラットフォーム時代のアプリ開発手法とツール」

8) 外部組織・団体との協業関係(順不同)

- ・部会活動への協力・支援
  - 産業技術総合研究所
  - 気象庁
  - 消防庁 消防大学校 消防研究センター
  - 慶應義塾大学大学院 稲見研究室
- ・BizAR 研究部会のアライアンス・パートナー
  - デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室
- ・マーケティング活動支援
  - 情報処理学会
- ・メディア・パートナー
  - ITmedia エンタープライズ
  - COMPUTERWORLD

9) 外部主催イベントに対する協賛、後援： 1回

- ・「ソフトウエアジャパン 2012」協賛 2012 年 2 月 1 日 タワーホール船堀
- 主催：一般社団法人 情報処理学会

10) 外部セミナー等での講演： 1回

- ・「ソフトウエアジャパン 2012 IT フォーラムセッション」 2012 年 2 月 1 日
- 「先端 IT の技術者育成と活用推進を目指して～AITC におけるビジネス AR&クラウド技術の活動ご紹介～」

AITC 副会長	田原 春美 (ドリーム IT21)
BizAR 研究部会サブリーダー	武 理一郎 (富士通株式会社)
BizAR 研究部会サブリーダー	中川 靖士 (日本ユニシス株式会社)
クラウド・テクノロジー研究部会リーダー	荒本 道隆 (アドソル日進株式会社)

11) プレス・リリース 2回

- ・先端 IT 活用推進コンソーシアム、初年度の活動資料を一般公開～会員限定資料を一般公開し、先端 IT を企業での活用推進を図る～ 2012 年 02 月 22 日
- ・先端 IT 活用推進コンソーシアム、ビッグデータが導く「知識を行動へ」実証プロジェクトを開始～災害時には一人ひとりに適した行動も先端 IT で支援～ 2012 年 04 月 13 日

12) Web サイト、FB ページ更新

- ・コンテンツ更新(日時/随時)
  - セミナー等開催案内
  - 部会開催案内
  - 協賛・後援イベント案内掲載

13) アンケート実施、公開

- ・「2011年度会員アンケート」

実施期間:2012年07月25日～2012年09月17日

公 開:2012年10月12日 (本会サイトに掲載、会員限定公開)

(注: AITC における 2011 年度とは、2011 年 9 月 1 日～2012 年 8 月 31 日を指す)



**第2号議案**

**2011年度収支報告の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**

## 2011 年度収支決算のご報告にあたって

本会では、予算立案に際して活動の充実による会員への会費還元を図ることを一義とし、活動そのものに対する予算充当を図っております。

特に、活動 2 年目となる 2011 年度の予算策定時には、活動の更なる活性化を目指した意欲的な展開を志し、柔軟な部会開催を支援するため、また、新規活動への取り組みに対し重点的に予算を充当することでご承認いただきました。

### ・勉強会・部会活動支援金(予算:120 万円)

技術検証のためのシステム環境の確保、ならびに部会メンバーの都合にあわせた柔軟な日程調整を可能にし部会開催会場を確保し易くするための支援として

### ・協働プロジェクト活動支援金(予算:90 万円)

部会連携による協働プロジェクト(Project LA(Leads to Action))の開発環境確保をするための支援として

### ・イベント開催費(予算:105 万円)

身近に触ること、試すことの難しい AR 関連機器を展示する「Touch & Try イベント」開催のための支援として

この 1 年の活動成果は、去る 8 月 29 日と 30 日に開催した「AITC Week 2012(活動成果発表会)」で発表しました通り、活動そのものは素晴らしい進展をしております。一方で、上記 3 つの活動支援金に関しては、いずれも予想以上の余剰金を残す結果となりました。

余剰の主たる理由については、収支計算書の備考欄に記載いたしましたが、プロトタイプ開発着手の遅延に起因する協働プロジェクト(Project LA)支援金の余剰を除いては、いずれも会員会社ご提供による会議室やセミナー会場を利用する、あるいは無料のリソースを活用する、あるいは手作りでデモ展示の造作を施すなど、活動メンバーの「無駄なお金は使わず、しかし活動は活発に」の知恵と工夫と心意気の結果であると言っても過言ではありません。

この場をお借りし、部会メンバーの努力に感謝するとともに、年間を通して、会議やセミナー会場の提供にご協力くださった会員各社様に心より御礼申し上げます。

当余剰金に関しましては、第 4 号議案(2012 年度活動計画)、第 5 号議案(2012 年度予算計画)にご提案の通り、活動の更なる進展を支え、3 年間の活動をとりまとめ外部発信にふさわしい形にするために有効活用して参る所存です。

会員各位のご支援、ご協力をもって、全ての活動が着々と進展し、充実の一途であることをご理解いただくとともに、余剰金の活用をご了解いただけますようお願い申し上げます。

2012 年 10 月 12 日

先端 IT 活用推進コンソーシアム  
会長 鶴保 征城

## 2011 年度収支計算書

2011 年 9 月 1 日 から 2012 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2011 年度 予算	2011 年度 実績	差額	備考(予算策定時 vs 実数)
<b>1. 収入の部</b>				
前年度繰越	3,593,458	3,593,458	0	
年会費	3,766,000	3,959,000	△193,000	予算策定時 <実数> 法人&個人事業主 37 会員×10 万円→38 会員 ×10 万円 → 2 会員 × 5 万円 個人会員 6 会員 × 1 万円 → 5 会員 × 1 万円 学会会員 2 会員 × 3 千円 → 3 会員 × 3 千円
セミナー等参加費	84,000	206,000	△122,000	非会員参加費収入 18 人 × 3 千円 → 11 名 懇親会参加費収入 30 名 × 1 千円 → 34 名 → 66 名 × 2 千円 → 非会員 2 名 × 3.5 千円
雑収入	5,000	979	4,021	支援金、受取利息等 → 支援金 0、利息 979 円
<b>収入の部合計</b>	<b>7,448,458</b>	<b>7,759,437</b>	<b>△310,979</b>	
<b>2. 支出の部</b>				<b>予算策定時 → 余剰の事由</b>
総会開催費	100,000	114,030	△14,030	懇親会費用、備品運搬費
セミナー、成果発表会等の開催費	500,000	379,870	120,130	外部講師御礼(交通費、懇親会費) セミナー用品運搬費
コンソーシアムサイト リニューアル費&運用管理費	300,000	296,740	3,260	リニューアル費: 25 万円 xmlconsortium.org ドメイン更新料: 5 万円
勉強会・部会活動支援金	1,200,000	16,648	1,183,352	クラウド基盤利用料(クラウド、CC): 34 万円 貸し会議室使用料(UX、NDA、AR): 63 万円 OS ライセンス料/登録料 : 2 万円 → 会員会議室 & 無料リソースの利用による余剰
協働プロジェクト活動支援金	900,000	158,697	741,303	クラウド基盤の使用料(プロト構築): 24 万円 防災情報 XML 購入費 : 36 万円 気象情報 & 災害情報購入費 : 6 万円 機器レンタル料 : 10 万円 等 → 開発着手の遅延による余剰
イベント開催費(Touch&Try)	1,050,000	449,702	600,298	会場費 : 30 万円 機材費 : 40 万円 会場装飾/造作費: 10 万円 広告/チラシ: 10 万円 会場運営費: 10 万円 等 → 会員会場利用 & 手作り造作による余剰
事務局経費	1,520,000	1,260,000	260,000	事務局サポート要員費 (情報配信 & サイト管理、会員管理 & 対応、 セミナー・イベント申し込み窓口 & 運営補助、 財務管理、経理業務、事務作業一般、対外対応等) → サポート開始遅延(2011 年 11 月 ~)による余剰
通信費	5,000	2,100	2,900	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	10,000	2,636	7,364	
雑費	10,000	2,945	7,055	振り込み手数料、駐車料
予備費	1,853,458	40,153	1,813,305	名刺、吊花・吊電
<b>支出の部合計</b>	<b>7,448,458</b>	<b>2,723,521</b>	<b>4,724,937</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>5,035,916</b>		

## 貸借対照表

2012年 8月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>【資産の部】</b>			
現金預金	5,238,916		
流動資産合計		5,238,916	
資産合計			5,238,916
<b>【負債の部】</b>			
前受金	203,000		
流動負債合計		203,000	
負債合計			203,000
<b>【正味財産の部】</b>			
正味財産			5,035,916
(うち当期正味財産増加額)			(1,442,458)
負債及び正味財産合計			5,238,916

## 財産目録

2012年 8月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>【資産の部】</b>			
現金預金	5,238,916		
普通預金	5,238,916		
横浜銀行	5,238,916		
流動資産合計		5,238,916	
資産合計			5,238,916
<b>【負債の部】</b>			
流動負債			
前受金	203,000		
流動負債合計		203,000	
負債合計			1 203,000
正味財産			5,035,916


# 2011 年度 監査報告書

## 監査報告書

2012 年 9 月 6 日

先端 IT 活用推進コンソーシアム  
会長 鶴保 征城 殿

監事

水谷 学 

私監事は、先端 IT 活用推進コンソーシアム会員規約第 34 条に基づき、本会の会期と定めた 2011 年 9 月 1 日から 2012 年 8 月 31 日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

### 記

#### 1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

#### 2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端 IT 活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

## 第3号議案

### 会員規約改定の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

## 会員規約改定

対象条項：(会期) 第1条 本会の会期は3年間とする。

改訂案：(会期) 第1条 本会の会期は2010年9月8日より2016年8月31日までとする。

### 改訂の事由：

現会員規約では、本会活動は今年度の活動をもって、すなわち2013年8月31日をもって終了することが規定されている。折々に、会員各位より3年での活動終了を惜しむ声、継続を希望する声を聞かせていただいていた。

最終年度にあたるこの一年間、会期終了後への不安を感じず、落ち着いて活動に参加いただくには、現時点で、会と活動の今後について方針を明確にしておくのが良いと考え、当総会にて会期の延長と会員規約の改訂をご提案するに至った。

### 会期延長の事由：

- ・ 本会は、設立目的に「これからのビジネスと社会基盤における先端ITの活用を推進すること」、ならびに、「先端ITに知見の深い技術者育成を目指すこと」を掲げ、活動に邁進している。
- ・ 本会は、活動理念の一つに特定企業や団体からの独立性・中立性を掲げ、企業の枠を超えた活動に取り組んでいる。産学官が連携し、高い専門性を持って、先端ITを評価し、活用推進を目指す中立的な立場から行う提案・提言は、企業活動・社会活動に対し大きな貢献が期待できる。
- ・ 設立以来のこの2年間を振り返ると、活動の主体はどちらかと言えば技術の研究・検証・実証に重きが置かれ、技術の研鑽に励んできたと言える。まさに、先端ITの活用を推進するために必要なコアスキルを蓄積し、技術者を育成する期間であったと言える。
- ・ 同時に、この2年間での蓄積は大きく、「Project LA」のように全部会が連携しプロトタイプシステム開発し、これを会員内外に公開し、試用してもらうことで同システムと先端ITの有効性の検証を行うことを目指すまでに成長した。
- ・ 謂わば、技術研究・研鑽の時期から、検証・実証結果をもって有用と考える先端ITの活用を推進する段階、提案・提言できる段階に到達しようとしている。
- ・ 2013年9月1日以降の3年間をかけて、更に技術の研究、検証、実証等で研鑽を積みながら、平行して先端ITの活用を推進していく、これこそが先端IT活用推進コンソーシアムの設立目的を達成するものであり、本会活動を更に有意義ならしめるものであると考える。なお、3年間という時間軸は、目標を定めてから活動成果をまとめるまでの平均的な活動のサイクルに世の中の流れとスピードを考えあわせ、更に過去の経験を踏まえて適切な期間として設定した。

上記の事由をもって、2013年9月1日以降3年間の会期の延長を前提に、会員規約(会期)第2条に従い、会員規約(会期)第1条の改訂をご提案する。(注：会員規約(会期)第2条 会期の延長は、総会の承認による。)

この前提付きの会期の延長をご承認いただいた暁には、本2012年度はこれまでの活動の集大成に励むとともに、次期活動への準備を行い、会と活動の更なる発展に寄与することを目指す。

**第4号議案**

**2012年度活動計画承認の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**



# 1. 本会の活動・運営方針

## 1) 活動理念

- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・一社ではできない活動、競合関係を超えた活動
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・成果物の公開

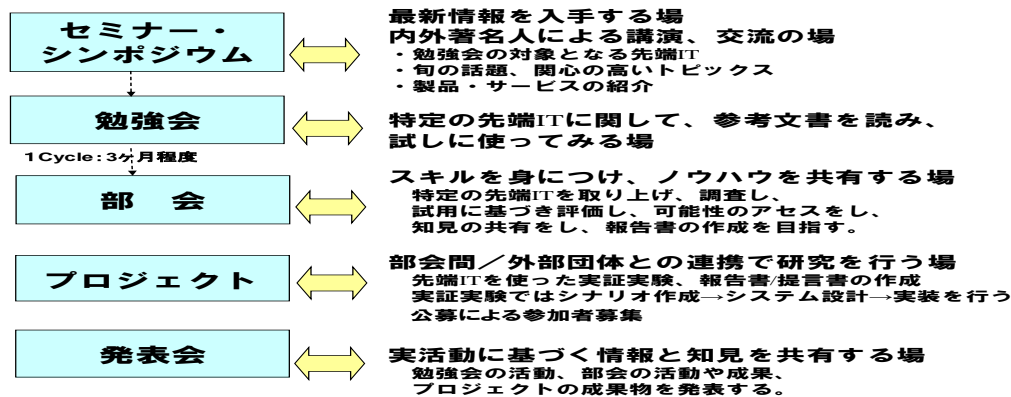
## 2) 活動の目的

昨今、ITの変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。

本会は、新しいIT(以下、先端ITという)の利活用を推進し、もってIT業界およびITが支える産業界、ならびに社会の発展に貢献することを目指し、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすための活動の「場」を提供する。

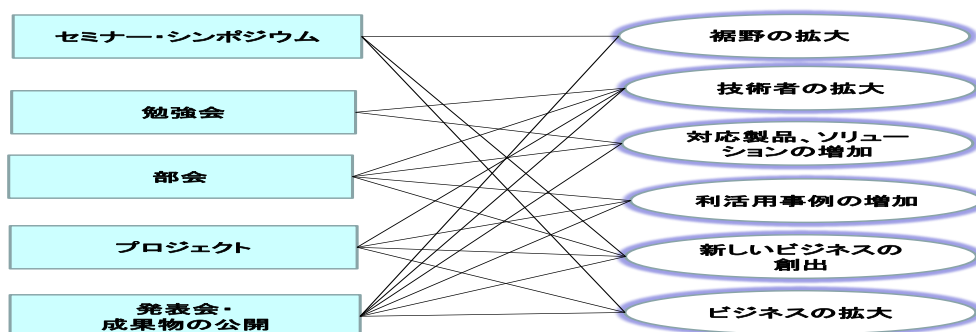
- ・日頃より関心はあるが実際には学ぶ機会のない先端ITに関する情報を、いち早く、そして幅広く、技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・先端ITを検証し、可能性をアセスし、良いものであればその利活用を推進する場
- ・いち早く次の先端ITを発掘し、紹介していく場
- ・先端ITに関する企業間交流の場

## 3) 活動の種類



- ① 勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端ITを短期集中(3ヶ月程度)で学習します。先端ITの動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく予定です。また、人気の高い先端ITに関しては、適宜、勉強会を繰り返す予定です。  
会員は希望する勉強会に何度でも参加することができます。
- ② 部会では、特定の先端ITを対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定めます。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端ITに関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能になります。加えて、人的ネットワークを培うことができます。  
会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができます。
- ③ プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動します。実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点があります。  
会員は公募に応募し、プロジェクトに参加することができます。

## 4) 活動の期待効果



## 5) 成果物

部会やプロジェクトの活動成果として、以下の成果物を想定する。

- ・試用・検討報告書、
  - ・実証実験報告書
  - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
  - ・プロトタイプシステム、報告書
- 会員限定：設計書、ソースコード、環境構築手順書  
一般公開：構築後のプロトタイプ

## 2. 2012年度の活動計画

### 1) 重点施策

以下の重点施策をもって、設立時に掲げた「先端 IT の有用性を検証し、その結果をもって利活用を推進する」目的を達成すべく、活動の深化・発展に努め、2010年9月からの活動の集大成を図る。

#### ・部会活動の深化

- ・単一の分野に特化して調査、研究、実証検証等を実施する部会活動は、本会活動の基盤であり、それぞれの活動のより一層の深化を図ることで、AITC活動の価値を高める。
- ・参加者のスキルやノウハウを高め、先端 IT 活用の推進を牽引できることを目指す。

#### ・協働プロジェクト(Project LA(Leads to Action))の遂行

- ・一つのテーマのもとに、部会が集結・連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- ・会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- ・構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

#### ・成果物の作成 & 書籍化等による外部への発信強化

- ・2010年9月からの集大成として、各活動の成果を適する形式(事例集、ガイドライン、報告書、論文、書籍(電子書籍も含む)等)にまとめ、適宜、会員内外へ発信し、もって先端 IT 活用の推進に寄与する。
- ・部会や協働プロジェクト(Project LA)で構築したプロトタイプシステムについては、構築後、一般公開するとともに、会員には設計書、ソースコード、環境構築手順書等を公開する。

#### ・“Touch & Try”イベントの継続開催

- ・2011年度に引き続き、ARを中心に“Touch & Try”式のイベントを開催する。
- ・当イベントでは、身近に機器機材が揃わず、簡単に試用してみることが難しい先端 IT 分野(ただし、本会が活動対象とするもの)を取り上げ、参加者に試してもらうことで、有用性を肌で感じる機会を提供する。イベント自体は一般公開し裾野を広げ、併せて、活動を外部に発信する。

#### ・旬の技術情報の提供

後述2)の活動対象分野以外の先端 IT 分野については、会員の関心が高いものや注目すべき先端 IT をテーマとしてセミナーや勉強会を開催し、旬の技術情報や学習の場の提供や先達者との交流を図る場作りに注力する。併せて、次期活動の参考となる情報提供を目指す。

#### ・次期活動構想の検討と活動準備

AITC所定の会期(2013年8月31日)後のあるべき姿について、団体活動の意義や先端 IT の技術動向等を踏まえて、次期の活動構想案を具体的にご提示するとともに、2012年度を次期活動への準備期間と位置付け、現活動の集大成と平行し、更なる活動の発展を目指す新しい試みを試行する。

### 2) 活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い分野における先端 IT をカバーしているからこそ、活動への関与の仕方次第で幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会があり、多様な人との交流も可能になることが期待できる。

この視点に立ち、本年度も対象分野別の活動を中核に据える。同時に、重点施策に記述の通り、以下にも注力する。

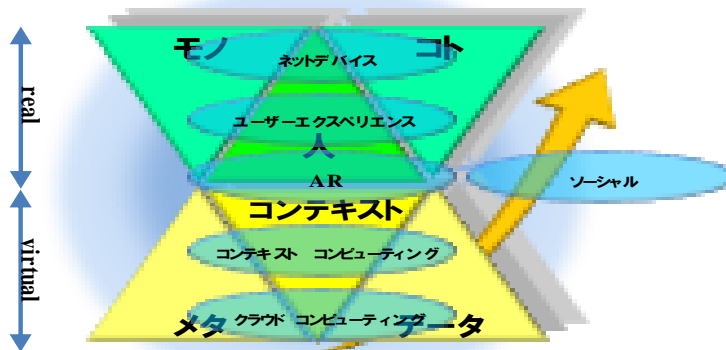
- ・先端 IT の動向に注視し、また、会員の要望を反映させながら旬の技術情報の提供に努める。
- ・部会連携による「協働プロジェクト(Project LA)」を展開することで、総合的な視点をもった活動を目指す。

#### 【活動対象分野】

- ① クラウド・テクノロジー
- ② コンテキスト・コンピューティング
- ③ ビジネスAR (拡張現実(AR))
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術
- ⑤ ネットデバイス アプリケーション

⑥ ソーシャル・コミュニケーション  
【活動対象分野の位置付け】

AITC's View

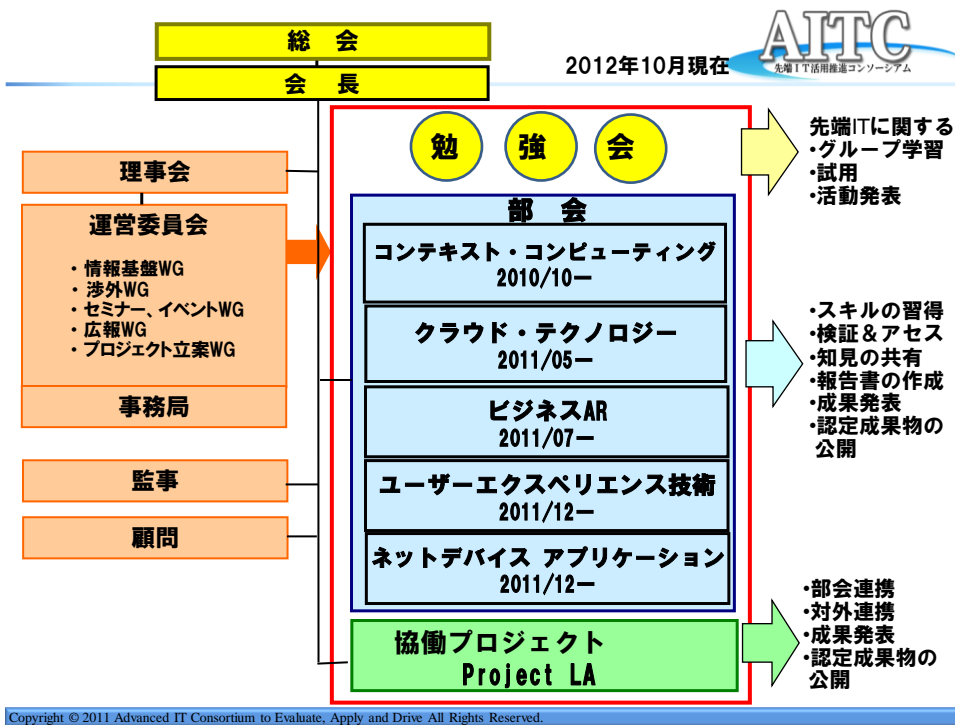


【新規分野への取り組みについて】

活動対象分野以外の先端ITに関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げあるいはセミナー主催し旬の情報提供に努める。

- ① 本会会員なら誰でも、いつでも要望、意見等何でも書き込み可能な会員 SNS「わいがや会議室」を新しい活動テーマや旬の情報の発掘にも活用する。
- ② 運営委員会が、適宜、セミナーを企画、開催する。
- ③ 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。
  - 会員規約第40条(勉強会)
  - 3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
  - 会員規約 第41条(部会)
  - 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3) 体制



注：部会および協働プロジェクト「Project LA」の活動計画については、付属資料「2012年度活動のご紹介」に記載。

#### 4)年間主要活動計画

(年次) 2012年10月12日 理事会、第三回総会、総会記念セミナー、懇親会  
 (月次) 運営委員会、部会リーダー会議  
 勉強会  
 部会  
 (日次) Webサイト更新作業  
 (随時) セミナー  
 活動/成果発表会  
 Touch&Tryイベント  
 AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会  
 取材協力  
 外部主催の催事に対する協力

#### (年間計画案)

2012年	10月	第三回総会 「System LA」モックアップ初披露
	11月	
	12月	セミナー&情報交換会 「System LA説明会」(会員公開に向けて)
2013年	01月	AITC賀詞交歓会
	02月	セミナー&情報交換会
	03月	AITC Day(中間活動報告会) 「System LA説明会」(一般公開に向けて)
	04月	セミナー&情報交換会
	05月	
	06月	セミナー&情報交換会
	07月	
=====		
	09月	AITC Week(活動成果発表会) Touch & Tryイベント 「Project LA」報告会
	10月	第四回総会、招待講演/セミナー、懇親会

注:2012年度(2012年9月1日~2013年8月31日)は次期活動に向けての準備期間として、上記の計画に加えて、適宜、新しい試みを計画し、実施する。

## 第5号議案

2012年度予算計画承認の件

先端IT活用推進コンソーシアム

## 2012 年度予算計画

2012 年 9 月 1 日 から 2013 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2011 年度 予算	2011 年度 実績	2012 年度 予算案	備考
<b>1. 収入の部</b>				
前年度繰越	3,593,458	3,593,458	5,035,916	2010 年度余剰金の事由: 本格活動への準備期間であったこと &有志による事務局作業の遂行 2011 年度余剰金の事由: 「2011 年度収支決算のご報告にあたって」に記載
年会費	3,766,000	3,959,000	4,066,000	法人&個人事業主 40 会員×10 万円 個人会員 6 会員×1 万円 学会会員 2 会員×3 千円
セミナー等参加費	84,000	206,000	210,000	非会員参加費による収入 10 人×3 千円 懇親会参加費による収入 90 名×2 千円
雑収入	5,000	979	1,000	受取利息等
<b>収入の部合計</b>	<b>7,448,458</b>	<b>7,759,437</b>	<b>9,312,916</b>	
<b>2. 支出の部</b>				
総会開催費	100,000	114,030	120,000	懇親会費用、備品運搬費
セミナー、成果発表会等の開催費	500,000	379,870	500,000	外部講師御礼(交通費、懇親会費) セミナー用品運搬費
コンソーシアムサイト リニューアル費&運用管理費	300,000	296,740	300,000	リニューアル費:25 万円 xmlconsortium.org ドメイン更新料:5 万円
勉強会・部会活動支援金	1,200,000	16,648	500,000	アプリ開発機器等:20 万円 貸し会議室利用料:20 万円 Web 上のサービス利用等:10 万円
協働プロジェクト活動支援金	900,000	158,697	1,000,000	クラウド基盤の使用料:95 万円 VPS 使用料:2 万円 等
特別支援金	0	0	4,000,000	活動成果物の書籍化
イベント開催費	1,050,000	449,702	500,000	機器機材費 :48 万円 会場装飾/造作費: 2 万円 等
事務局経費	1,520,000	1,260,000	1,520,000	事務局サポート要員費(情報配信&サイト管理、会員管理 &対応、セミナー等申し込み窓口&運営補助、財務管理、 経理業務、事務作業一般、対外対応等)
通信費	5,000	2,100	3,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	10,000	2,636	4,000	
雑費	10,000	2,945	3,000	振り込み手数料
予備費	1,853,458	40,153	862,916	
<b>支出の部合計</b>	<b>7,448,458</b>	<b>2,723,521</b>	<b>9,312,916</b>	

- 特記事項: 1. 年会費の収入については現会員数をベースに確実な収入額を計上  
 2. 特別支援金として、部会や Project LA の活動成果を書籍化する際の予算を計上  
 3. 資金を担保する目的で、予備費として収入の 10%弱を計上

**第6号議案**

**2012年度理事/監事選任の件**

**先端 IT 活用推進コンソーシアム**

## 2012年度 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】（敬称略、社名50音順）

（交代）

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術センタ センタ長	佐藤 一裕
------------	------------------	-------

（留任）

イースト株式会社	代表取締役社長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ センタ長	上島 康司
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
独立行政法人 情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術部 マネージャ	牧野 友紀
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立製作所	情報・通信システム社 IT プラットフォーム事業本部 開発統括本部 主管技師長	吉野 松樹
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部 部長	小野山 隆
富士通株式会社	計画本部 プリンシパルエキスパート	弘末 清悟
富士ゼロックス株式会社	執行役員	柳瀬 努
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
リコーIT ソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

【監事候補】

（留任）

ピー・シー・エー株式会社	代表取締役社長	水谷 学
--------------	---------	------

=====

参考： 顧問 & 部会顧問（敬称略、組織名50音順）

【顧問】

（留任）

慶応義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授	稲見 昌彦
慶応義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
産業技術総合研究所 知能システム研究部門 上席研究員・社会知能研究グループ長	橋田 浩一
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科客員教授	丸山 不二夫
名古屋大学大学院情報科学研究科 教授	山本 修一郎

【ビジネス AR 研究部会顧問】

AR 三兄弟 長男	川田 十夢
デジタルハリウッド大学大学院 メディアサイエンス研究所 教授	三淵 啓自



【運営委員候補】(敬称略、社名50音順)

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術センタ	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーセンター マネジャー	芦田 尚人
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ 課長	高木 徹
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術部 マネージャ 総合技術研究所	牧野 友紀 小林 茂
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部	富山 全徳
富士通株式会社	計画本部	袴田 眞史
富士ゼロックス株式会社	コントローラプラットフォーム第二開発部 マネジャー	道村 唯夫
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
リコーIT ソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

(新任)

株式会社イーグル	開発部	菅井 康之
株式会社NTTデータ経営研究所	ソーシャルイノベーション・コンサルティング本部 社会システムデザインチーム マネジャー	大林 勇人
産業技術総合研究所	知能システム研究部門 社会知能研究グループ	高岡 大介
株式会社ゼンリン	事業開発本部 ビジネス開発部 マネジャー	渋谷 健
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第二開発部	門馬 隆

## 付属資料

### 2012 年度活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー研究部会  
コンテキスト・コンピューティング研究部会  
ビジネス AR 研究部会  
ユーザーエクスペリエンス技術部会  
ネットデバイス アプリケーション部会  
協働プロジェクト(Project LA)

先端 IT 活用推進コンソーシアム

## クラウド・テクノロジー研究部会

### ■背景/活動目的

1年目はセミナー・勉強会から部会となり、事前に決めたテーマに沿って、勉強会の開催・調査・プロトタイプの実行を行った。

2年目は、1年目の成果を発展させると共に、クラウド間の連携や SNS との連携についての調査・プロトタイプの実行を行った。また、ProjectLA の要素技術についての検証・プロトタイプの実行も行った。

この3年目は、クラウドのインフラや技術を使って ProjectLA でのバックエンドのサービスを構築し、それを運用する。実際に一定期間このサービスを運用することで大量のデータを蓄積し、そのビッグデータを使用して機械学習を行う。また、これまでに得た知見をハンズオンや勉強会を通して研究部会の内外に展開する。

### ■活動計画

#### ・ProjectLA のサービス運用

ProjectLA で使用するバックエンドのサービスを実装する。

クラウドのインフラを使って、実際にサービスを運用する。

#### ・ProjectLA で蓄積されたデータを使った分析

実運用で蓄積したビッグデータを使用して、機械学習を行う。

#### ・情報収集

月例ミーティングで、部会メンバー同士で収集した情報を交換する。

#### ・ハンズオンや勉強会の開催

これまでの知見・ノウハウを研究部会の内外に展開する。

### ■活動成果

#### ・調査報告書

#### ・ProjectLA のバックエンドサービスの構築

設計書

ソースコード

環境構築手順書

### ■活動方法

#### ・月例ミーティングの開催

#### ・SNS 上での情報交換

#### ・ハンズオン形式での勉強会の開催

### ■活動ロードマップ

#### ・2012 年 09 月～10 月

#### ProjectLA のサービス実装

- 2012 年 10 月  
ProjectLA のサービスのベータ運用開始
- 2012 年 11 月～12 月  
ProjectLA の本番運用に向けてのブラッシュアップ
- 2012 年 12 月  
ProjectLA のサービスの本番運用開始
- 2013 年 01 月～09 月  
サービス運用で蓄積されたデータの分析  
報告書の作成

---

## コンテキスト・コンピューティング (CC) 研究 部 会

### ■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。

その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータする研究を行う。

この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

### ■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンスが階層的に連動する情報基盤を提言する。

### ■活動内容

- Project LA に参画し、コンテキスト・コンピューティングのアプリケーション検討、試作
  - 関心事に集う利用者間でコンテキストを共有するシステム「関心事にチェックイン！」の開発
- Project LA の活動を通じたコンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョンの具体化
- コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査
- コンテキスト・コンピューティングの関連分野の調査と研究
  - オントロジー、セマンティック Web、LOD (Linking Open Data) など最新技術の調査
  - サービス工学におけるサービス・イノベーション・サイクルとコンテキストの研究
  - HCI (Human Computer Interaction) の再考

## ■活動計画

2010 年部会発足時に策定した 3 年計画の最終年にあたり、情報処理のパラダイムである“コンテキスト・コンピューティング”を知らしめる。

2010 年度「コンテキスト・コンピューティング“構想”」ビジョン立案、プロトタイプ構想、基礎研究調査、

2011 年度「コンテキスト・コンピューティング“実験”」課題設定とプロトタイプ開発に続き、

2012 年度「コンテキスト・コンピューティング“評価”」課題達成評価、プロトタイプ公開、研究成果公開につなげる。情報処理学会、人工知能学会など関連学会へ論文を投稿し、学術的に認知を広める。

また、2012 年度はコンテキストの蓄積・分析におけるクラウド・テクノロジー研究部会、HCI の領域での UX テクノロジー部会、ビジネス AR 部会との連携し研究内容を深める。

## ■活動成果

- コンテキスト・コンピューティングに基づくプロトタイプ・システム
- コンテキスト・コンピューティングに関する Wikipedia 記事
- コンテキスト・コンピューティングに関する資料(論文、報告書)

## ■活動方法

- 月次ミーティングでのディスカッション
- 関連技術識者によるセミナー実施
- オンラインでの記事執筆

---

## ビジネス AR 研究部会

### ■ 背景

急速なスマートフォンの普及に伴い、センシングとリアルタイムの映像の獲得も急速に普及してきている。

また、スマートフォンの進化に伴い、スマートフォンの持つ性能も PC レベルの性能を保有するに至っている。

このような中で、映像に対してリアルタイムな処理を施し、重ね合わせで現実を拡張する AR が身近な技術となっており、特に AR の表現の面白さからエンターテインメントの世界での利用が始まっている。

しかしながら、AR にはエンターテインメントのための技術だけではない。視覚以外の拡張も実用化されてきており、人間の五感を拡張し IT と人間をつなぐ技術として、様々な可能性を秘めている。

その意味で、AR はまさに進化の過程にあり、ビジネス分野における AR の活用までには様々な検討が必要であると本部会では捉えている。

加えて、現在の AR はコンテンツの表現方法に集中しており、また AR コンテンツを目的としたビジネスは進んでいる一方、AR によるビジネスの変革や拡大は起こっておらず、手付かずの領域である。

本部会では、このビジネスを AR で変革する領域をビジネス AR と定義する。

#### ■ 活動目的

最先端のAR技術の把握と習得およびビジネス推進力のあるAR適用方法について研究することを活動目的とする

#### ■ 活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1) ビジネス AR を創出する AR 産業に関する考察
- 2) AR 技術への理解を深めるための試行実験
- 3) 協働プロジェクトに参画し、AR の有効性を実証

#### ■ 活動計画

前述の活動目的を達成するため、今までの部会活動を鑑みて 2012 年度は下記の活動を行う。

- 1) オンライン & オフラインによる議論に基づき AR 産業論を組み立てる
- 2) 各種 SDK および市販機器を組み合わせによる AR 技術実践トライアル
- 3) 上記トライアルを用いて、ProjectLA に参画

#### ■ 活動成果

- 1) AR 産業を目指した議論の総集編
- 2) 技術トライアル成果物の公開
- 3) 各種セミナー資料
- 4) 月例会議事録及び参考資料

#### ■ 活動方法

- 1) 月例会の開催
- 2) 技術等の最新動向等を得るための外部講師による不定期セミナーの開催
- 3) SNS 等を利用した意見交換や技術情報の交換、トライアル開発

---

## ユーザーエクスペリエンス (UX) 技術部会

#### ■ 背景

IT システムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から、利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザーエクスペリエンスを高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。

しかし、優れた UX を提供する IT の実現には、RIA 技術やグラフィックデザインだけでなく、使い易さを追求する

ための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。

このような状況の中、UX デザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され、体系化が進められてきている。

#### ■活動目的

UX デザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供する IT システムとは何かを探究する。

UX デザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、IT の UX 向上に貢献していく。

#### ■活動内容

Project LA(System LA)を題材として

- ・UX デザインプロセスの実践と評価
- ・UX を実現する実装技術の習得
- ・UX の評価・検証手法

を行う。

更に並行して

- ・UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究
- ・近未来 UX の検討

を行う。

UX デザインプロセスで設計したアプリケーションは、ネットデバイスアプリケーション部会での実装することで、設計→実装→評価のサイクルを回すことによって、プロセスの更なる改善を図る。このため 2012 年度もネットデバイスアプリケーション部会とは合同で活動を行うことにより、効率的に活動を推進する。

#### ■活動計画

- ・2012 年 9 月～2012 年 12 月:Project LA を題材とした UX デザインプロセスの実践と評価  
UX を実現する実装技術の習得
- ・2013 年 1 月～2013 年 4 月:UX の評価・検証手法  
UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究  
近未来 UX の検討
- ・2013 年 4 月～2013 年 8 月:UX デザインプロセスの実践を通して得られた知見の取りまとめ

#### ■活動成果

- ・UX デザインプロセス実践ガイドライン
- ・UX 評価・検証ガイド
- ・UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例集

#### ■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

---

## ネットデバイス アプリケーション(NDA) 部会

#### ■背景

iPhone,Android、WindowsPhone といったスマートフォンが携帯性、瞬時起動、インターネット常時接続、快適な操作性を武器に、便利なクラウドサービスのフロントエンドデバイスとして情報の検索や共有、コミュニケーション、ライフログの記録などが日常生活の中で普通に行われる行為として認知されている。

一方、企業内における業務活用に目を向けると、一部を除き未だPCの活用が中心ではあるが、スマートフォン、タブレット端末、スレート端末などのネットデバイスの企業内での活用が急速に進んでいる。

#### ■活動目的

スマートフォン、タブレット端末、スレート端末などのネットデバイスの特性を最大限に引き出した企業内における業務に活用できるアプリケーションの調査、検討、プロトタイプ開発を通してネットデバイスを活用した新しいビジネススタイルの在り方を提言する。

#### ■活動内容

Project LA(System LA)を題材として、様々なネットデバイスの特性を最大限に引き出したアプリケーションの開発を行う。

また、

- ・企業内における業務シーンの調査
- ・事例調査、研究

を行うと共に

- ・現在のネットデバイスの不足機能の洗い出し

や

- ・新しいビジネススタイルの提言

を行う。

ネットデバイスアプリケーション部会で開発するアプリケーションは、ユーザーエクスペリエンス技術部会が UI 設計を行い、設計→実装→評価のサイクルを回すことによって、プロセスの更なる改善を図る。このため 2012 年度もユーザーエクスペリエンス技術部会とは合同で活動を行うことにより、効率的に活動を推進する。



#### ■活動計画

- ・2012年9月～2013年3月: System LA のクライアントアプリケーションの開発と評価
- ・2013年4月～2013年8月: 企業内における業務シーンの調査/事例調査、研究  
現在のネットデバイスの不足機能の洗い出し  
新しいビジネススタイルの提言  
SystemLA のアプリケーションの改善

#### ■活動成果

- ・System LA のクライアントアプリケーション
- ・ネットデバイスの特性を生かした業務シーンモデル/シナリオ
- ・業務利用に当たって、現状のネットデバイスに不足する機能要件
- ・ネットデバイスの活用にもたらされる次世代ビジネススタイル提言

#### ■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

---

## 協働プロジェクト(Project LA(Leads to Action))

#### ■活動テーマ

「知識から行動へ(Leads to Action)」。 「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、「情報や知識を活用して行動し、日常生活に活かすことに真の価値がある」との考えに基づき、収集した情報を知識化し、行動を促す・行動を引き起こす仕組み作りを目指す。 また、2011年3月11日の東日本大震災の経験から、平常時に使い慣れ非常時に活用できるシステムの在り方も模索する。

#### ■活動目的

- 1) 一つのテーマのもとに、部会が集結・連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2) 会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3) 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

#### ■活動内容

システムは状況の異なる一人一人が適切な行動を取るために、一般的なビッグデータを自分への影響が分かる個人化した情報に変換して提供するプロトタイプ・システム「System LA」(参考 2)を開発し、先端 IT 活用推進コ

ンソーシアム内外で段階的に公開し効果を検証する。

各部会は Project LA に参加し、各部会の研究・調査領域に関連する役割を担い、SystemLA の開発と検証を行う(参考 1)。



#### ■活動計画

- 2012年10月12日 総会 部会毎の研究調査内容説明(モックアップ案紹介)
- 2012年12月 System LA プロトタイプ初版開発終了
- 2013年1月 コンソーシアム内公開
- 2013年3月 一般公開
- 2012年9月 評価、最終報告

注: コンソーシアム内外に対する告知・広報活動を、通年レベルで計画し、実施する。

特に、コンソーシアム外に対する広報活動については、例えば外部セミナーでの講演やプレスリリース配信を含め、適切な時期に最適の方法で行うよう十全なる計画と準備を行っていく。

#### ■活動成果案

##### 1) 一般公開

報告書

構築後のプロトタイプ

##### 2) 会員限定

設計書

ソースコード

環境構築手順書

■活動方法

- ・部会リーダーと運営委員会有志による ProjectLA の推進
- ・各部会による System LA 担当分野の開発

■特記事項

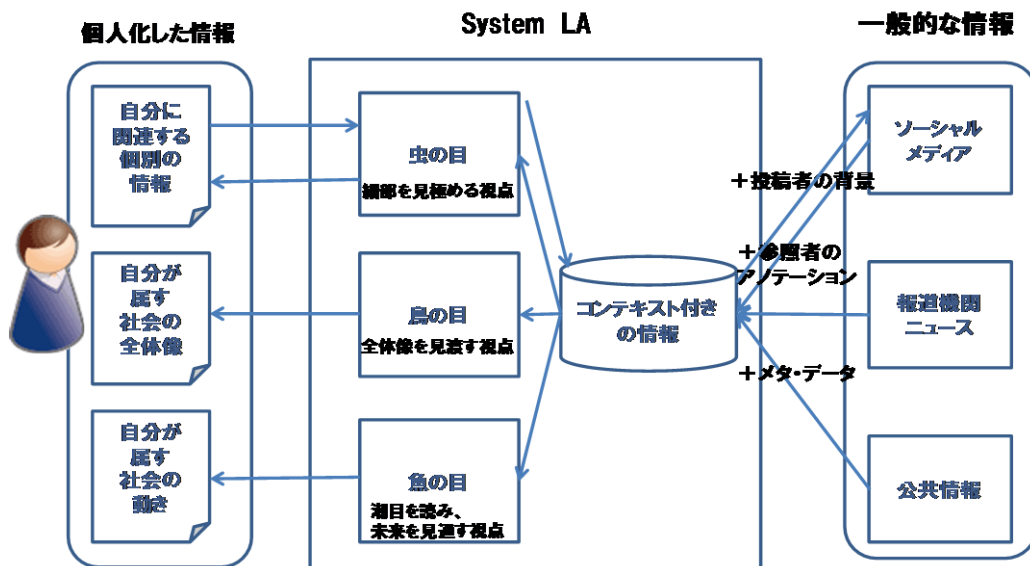
・本活動は、共同プログラムの開発ではないが、基本的な考え方や対処方法に多くの共通点があることから、実施に際しては会員規約および実施細則に記載された下記の関連条項や項目に準拠することとする。

- －会員規約第 50 条（成果物の取り扱い）
- －会員規約第 51 条（知的財産権）
- －実施細則「共同プログラム開発に関して」
  - II. 公開・利用に関する原則
  - V. 成果物としての共同開発プログラムの取り扱いについて
  - VIII. 権利侵害への対応について

- 参考資料： 1. System LA の概要  
2. 各部会の担当領域

【参考1】 System LA の概要

システムは状況の異なる一人一人が適切な行動を取るために、一般的なビッグデータを自分への影響が分かる個人化した情報に変換して提供する。



【参考 2】各部会の担当領域

- A. アーキテクチャ策定と全体システムの設計：コンテキスト・コンピューティング研究部会
- B. UX デザインと実装
  - ：ユーザーエクスペリエンス技術部会
  - ネットデバイスアプリケーション部会
  - ビジネス AR 研究部会
- C. ビッグデータ蓄積と検索・分析：クラウド・テクノロジー研究部会

